

単年度業務報告書 (2025 年度)

2026 年 3 月

目次

①	管理体制、業務分担、緊急連絡体制等の実施体制に係る事項.....	2
1.	管理体制・業務分担.....	2
2.	緊急連絡体制.....	3
②	業務別の実施報告.....	4
(1)	統括管理業務.....	4
(2)	運営業務.....	7
(3)	維持管理業務.....	11
(4)	任意業務.....	17
(5)	世界陸上に関する評価項目.....	18
③	セルフモニタリングの結果.....	20
1.	KPI のセルフモニタリング.....	20
2.	要求水準等のセルフモニタリング.....	21
	統括管理業務.....	21
	運営業務.....	22
	維持管理業務.....	23
	任意業務.....	24
3.	世界陸上に関する評価項目のセルフモニタリング.....	25
4.	財務状況のセルフモニタリング.....	26
5.	修繕計画のセルフモニタリング.....	27
④	単年度修繕報告（今年度に実施した事後保全及び計画修繕）.....	28

① 管理体制、業務分担、緊急連絡体制等の実施体制に係る事項

1. 管理体制・業務分担

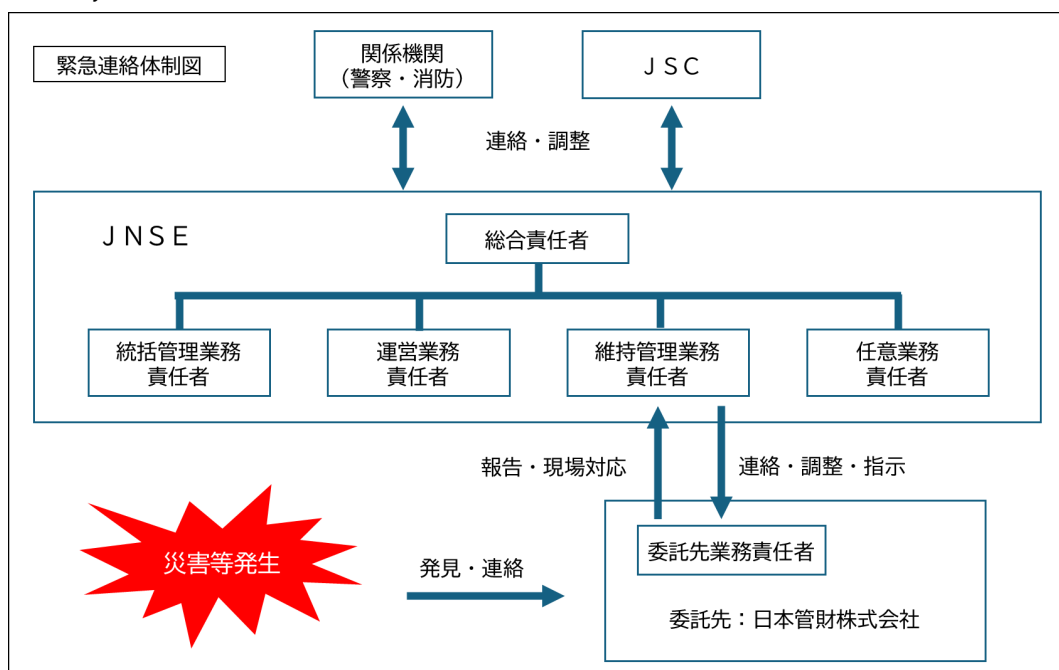
国立競技場運営事業等について、代表取締役社長（総合責任者）の下、ビジネスデザイン部（運營業務、任意業務担当）、コーポレート部（統括管理業務担当）、ファシリティマネジメント部（維持管理業務担当）の3部を設置し、下記の業務分担にて実施した。

【組織体制図】

部	課	業務
ビジネス デザイン	イベント企画	【運營業務】 ①広報・魅力発信・誘致業務 ②本施設の提供業務 ③安全管理・防災業務 ④近隣対応業務
	渉外広報	
	サービス企画	【任意業務】 ①ネーミング・ライツ業務 ②その他の任意業務
コーポレート	経営企画	【統括管理業務】 ①マネジメント業務 ②総務・経理業務 ③事業評価業務 ④JSCへの協力業務
	経理・財務	
	内部統制 アドバイザ	
ファシリティ マネジメント	施設管理	【維持管理業務】 ①保守管理業務 ②修繕業務 ③更新投資業務
	フィールド管理	

2. 緊急連絡体制

- ・ 緊急連絡は、防災センターで365日24時間受け付ける体制を整え、委託先業務責任者（不在時は代行者）の下で1次対応を行うとともに、速やかに維持管理業務責任者へ状況報告を実施。
- ・ 維持管理業務責任者は災害等の状況を踏まえ、委託先業務責任者への指示のほか、総合責任者、統括管理業務責任者ほか株式会社ジャパンナショナルスタジアム・エンターテインメント（以下、JNSE）関係者と連携。
- ・ JNSE 各部は、消防計画、BCP、来場者避難誘導マニュアル等に則り、緊急対応を実施する体制を整備。
- ・ 災害等の状況については、速やかに独立行政法人日本スポーツ振興センター（以下、JSC）及び関係機関（消防、警察）等に連絡を実施。



② 業務別の実施報告

(1) 統括管理業務

1. マネジメント業務

1-1 業務実施体制の構築

- ・ JNSE は、全部で 3 部署・総職員 47 名体制（2026 年 3 月末時点）とし、組織規程等により各部署の責任者を明確にし運営した。※非常勤役員除き、有期社員等含む
- ・ 2025 年 4 月 1 日、横浜アリーナ常務取締役経験者を NTT ドコモより総合責任者として派遣。また、業務の権限・責任分担を責任規程等により定めた。

1-2 JSC 及び関係機関等との連携

- ・ JSC 及び関係行政機関等との連絡調整について統括管理業務担当(経営企画課)が窓口となった。
- ・ 周辺施設や地域との窓口（渉外広報課）を設置。
- ・ 地域連携に関して国立競技場の近隣住民・施設等の関係者との会合等に参加し情報共有等を実施し連携強化に努めた。
- ・ JSC との月次報告会については、議事録を作成・共有するとともに、近隣住民・施設の関係者との会合等については、会議名、出席者、議題をまとめた記録簿を作成。
- ・ 2025 年 3 月に業務計画書を JSC に提出(8 月修正)するとともに、モニタリング月次報告書を毎月 15 日までに JSC へ報告し、JSC と週次及び月次の報告会を実施。業務報告書について、期限である 2026 年 4 月末までに提出した。

1-3 管理監督

- ・ 毎月、各担当においてモニタリング実施要領書を記載し、とりまとめの上、各部長・社長が確認して一元的に管理。
- ・ 要求水準を満たすため、各業務のセルフモニタリングを実施し、課題として把握した下記事項に対応した。
 - 10 月（11 月初）イベント興行主から清掃品質改善の要望を頂き、その後、JSC より注意を受ける。
 - 清掃会社と具体的対応策の検討を行うとともに、JNSE 内の業務改善委員会にて改善方法を検証。改善結果を 1 月中に JSC に確認いただき、2 月の月次報告会で報告、その後に業務改善委員会での検証、経営会議での審議を経て是正報告書を提出。
 - ナショナルスタジアムパートナーと主催者側スポンサーとの権利競合が生じ、調整に時間を要していた。
 - 主催者側スポンサーとの権利競合の調整において、JNSE 案を主催者側に提示し、主催者側の利用意向、懸念に関する協議を実施。その結果、一定の合意・理解を得ら

れたことで、1月からスタジアム側スポンサーの権益運用を開始できるに至った。今後新たに権利競合が生じた際には、主催者側の理解を得られるよう、随時協議を行う。

- ・ 月次モニタリングにおいて常勤監査役によるウォークスルー等で監査を実施。実施した内容は監査部会で確認することで、モニタリングが適切に実施されているか検証（5月以降、毎月実施（全11回））
- ・ 業務改善委員会を2回開催。今後も改善内容について履行ができていないか定期的に確認を行う。
 - 第1回：問題が発生した事項の改善方法を検証、是正に向けた作業スケジュールを確認
 - 第2回：改善状況の報告確認及び現地確認
- ・ 経理担当者は月次で予実管理を行うとともに、コスト効率化に向けて各担当にヒアリングを行った。これを踏まえ、総合責任者、統括管理業務責任者（必要に応じて運営業務責任者、維持管理業務責任者）はモニタリングを実施し、最適なコストになるよう是正を行った。

2. 総務・経理業務

2-1 予算決算

- ・ 親会社と連携の上、収支計画、KPIを策定。期首や中間、期末などの時期を中心に親会社とコミュニケーションを図りながら運用した。
- ・ 自社様式、会計システムを用いて予実分析を毎月実施し、決算につなげた。
- ・ 定時株主総会後遅滞なく、Webサイトにて決算公告を公開した。
- ・ 各業務責任者がコスト管理計画の運用状況を審査し、計画の中間見直しを実施することで、コストを効率化した。

2-2 文書等の作成及び管理

- ・ モニタリング月次報告書で毎月の業務の記録を作成した。
- ・ 各業務において、日報等を作成し記録を作成・保管した。
- ・ 文書管理規程や情報管理規程等を整備した。
- ・ JSC経由の関係省庁からの資料共有要請に対応した（スポーツ庁、財務省への実施契約書等の共有等）。

3. 事業評価業務

- ・ モニタリング実施計画書に基づき、セルフモニタリングの仕組みを構築し、適切に実施。
- ・ 各業務の進捗状況のほか、業務計画でKPIとして設定した年間売上、稼働日数等の施設利用状況、満足度調査等の進捗状況を毎月確認し、月次報告会等において報告し

た。KPI の達成が困難なものについては、要因分析及び改善に向けた検討を実施している。

- ・ JSC の第 1 回モニタリング有識者委員会（5 月 26 日開催）の意見を踏まえ、KPI に「スポーツ振興に関する事項」を追加するため、スポーツイベント日数の分類方法（見るスポーツ・するスポーツ等）を検討し、第 2 回有識者委員会（11 月 13 日開催）にて審議し、承認された。
- ・ KPI のうち顧客満足度について、現状の国立競技場の評価をよりの確に把握し、改善につなげていけるよう、KPI の変更も含め検討。
- ・ 国立競技場の運営について、スポーツ等の専門的知識を有する外部有識者から各業務に関する助言を受け、効果的な事業運営及び適切な事業評価等を行うため、2026 年 2 月に第三者諮問委員会開催。
- ・ 世界陸上財団（LOC）及び JSC との定期的な調整会議を通じて、施設運営や更新工事のほかコスト・資金に対する影響を把握し、要求水準や計画等の達成状況を評価するとともに、当該影響によって達成が困難と判断した項目の業務進捗状況を整理した。
- ・ 監査部会によるセルフモニタリング実施状況の検証において発見された事項について、手順書の作成及びチェックシートを作成し改善を図った。
- ・ セルフモニタリングで確認した課題について、担当において対応策を検討・実施し、進捗状況については月次報告のとりまとめ等で定期的に確認した。

4. JSC への協力業務

- ・ JSC と JNSE が各業務の調整・進捗状況確認を行う週次モニタリング分科会を実施。
- ・ JSC からの法人パンフレット作成依頼に対し協力した。
- ・ 9/3-8 の 6 日間、大阪万博会場で開催されたスポーツ庁催事企画「Sports Future Lab ～スポーツがつくる未来～」に JNSE として出展。NTT が開発した「耳スピ」を活用した先進の観戦体験デモを中心に、国立競技場の魅力を国内外広く一般に向けて訴求。（ブース体験者合計：8,287 人／Sports Future Lab 全体来場者合計：約 77,000 人）
- ・ 10/13、スポーツ庁が主催する「2025 スポーツ祭り」に JNSE として出展。「耳スピ」や選手ベンチ、バックボード等使ったフォトスポットの展示を通して、周辺地域向けに国立競技場の魅力を訴求。（来場者合計：1,400 人）
- ・ 会計検査院実地検査の国立競技場視察日程調整及び資料提供依頼への対応を実施。

(2) 運営業務

1. 広報・魅力発信・誘致業務

1-1 広報・魅力発信

- ・ スタジアムツアーについて興行のない平日を中心に、改修工事に支障が生じないようルートを再設計したうえで催行したのに加え、イベント設営・撤去期間についても主催者から同意が得られた日程で実施。
- ・ 世界陸上を契機とした大会気運の醸成と子供たちの運動離れ対策として、6月から8月にかけて東京都と共催で特別ツアーを実施。
- ・ 近隣ホテル、駅にスタジアムツアーのパンフレット、ポスターを掲示し、インバウンド需要の取込みを図った。
- ・ 以下プレスリリース、メディア取材を通して国立の魅力を発信した。
 - プレスリリース：12 件
 - 10/15 JNSE 事業戦略発表会
 - 参加メディア：41 媒体
 - 記事露出：1239 件（TV：44、新聞：243、ウェブ：952）
 - 3/16 KOKURITSU NEXT 記念式典
 - 参加メディア：30 媒体
 - 記事露出：427 件（TV：5、新聞：8、ウェブ：414）
 - 上記除く FY25 の取材対応件数：22 件
- ・ 以下の情報について、Web サイトにて情報発信
 - 基本的な施設紹介のほか、アクセス情報、バリアフリー案内、インフォメーション問い合わせ窓口の案内
 - 主催者の情報公開と連動したイベント情報の公表
 - スタジアムツアー開催日程やツアーコンテンツに関する案内
 - イベント・撮影の利用案内、写真・映像の貸出案内
 - ナショナルスタジアムパートナー決定に伴う詳細ページの掲載（26/1～「MUFG スタジアム」に伴う表記、デザイン変更）
- ・ MUFG スタジアムの呼称および新ロゴマーク「ハーモニーオーバル」の商標登録を行うにあたり、事前に JSC の承認を得た。
- ・ 第三者からの本施設の写真データ利用の依頼に対して利用用途や利用想定を確認のうえ、貸出を行った。
- ・ 電話、メール、インフォメーションセンターでの問い合わせ窓口を設置。個人のお客さまからの問い合わせは、丁寧且つ迅速に対応。

1-2 誘致

- ・ 要求水準書および利用規約に記載の年間利用調整スケジュールに則り、主要スポー

ツ競技団体からのお申込みを優先的に受付実施。その後、一般申込を開始し、その他の競技団体および一般企業からの問い合わせや相談に対し、誠意を持って個々に対応した。

- ・ 26 年度利用申込みについては、上記と同様の方法で 25 年 10 月から開始した。
- ・ 特に 25 年度は、世界陸上財団（LOC）との協定に基づき、世界陸上の準備・撤去期間において、世界陸上および設営・撤去工事と平行してイベントを開催できるよう調整のうえ対応を行った。これにより、国際的なスポーツ競技大会、全国的なスポーツ競技大会、女性スポーツ、アマチュアスポーツ、パラスポーツ大会を幅広く開催。
- ・ LOC と工事や会場使用協定などの定例会議において、開催日程や事前準備、原状回復に伴う興行への影響に対する調整を行い、主催者と工事との責任区分を書面で確認したうえで、音楽興行 2 件を開催。
- ・ 事前準備や現状回復と共存が可能となるよう、LOC と調整を重ねることで、企業による団体利用（ランニングイベントや懇親会利用等）や撮影などに貸出を行うことができた。
- ・ OVG 社と連携し、国立競技場の価値を最大化するスポンサーシップの企画を行い、国内外の企業に対し提案を実行。
- ・ ナショナルスタジアムパートナー制度（ネーミングライツや広告露出にとどまらない、社会価値共創のためのパートナーシップ制度）を創設し、トップパートナー（ネーミングライツパートナー）については、2025 年 10 月 15 日付で株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループ（MUFG）と契約を締結した。スポンサー価値を向上するため、スポンサー名の場合内外における露出の最大化に向けて、デジタルサイネージ設置等の準備・調整を実施し、26 年 1 月より運用開始。その他のオフィシャルパートナーについては、11 月 1 日付で国内企業 1 社と契約を締結し、2026 年 3 月から運用を開始。ほか複数の企業に対し提案・交渉を実施中。

2. 本施設の提供業務

2-1 本施設の提供

- ・ 25 年度の利用については、世界陸上開催に伴う利用期間・工事エリアなどの制約・利用条件を主要スポーツ団体へ説明し理解をいただくことで、定期開催興行（陸上・サッカー・ラグビー等）の開催を実現。一般の利用についても可能な範囲で対応を行い、世界陸上による利用期間終了後は、スタジアム工事（ホスピタリティ・スポンサー関連工事）と共存する形で興行開催を図った。
- ・ 世界陸上開催・JNSE 工事による減席影響等については、利用者に事前説明を行うなどの対策を実施。
- ・ 26 年の利用申し込みに向けて、主要スポーツ競技団体（JFA/J リーグ/ラグビー協会/日本陸連等）へは、25 年 7 月より、定期的にミーティングを開催し、①25 年工事

状況、②26年以降の運営方針についての説明を重ねたうえ、25年10月より26年での申込を開始。26年1月より決定通知を発出。

- ・ 興行主向けのアンケートの結果において、初めて利用する（または利用頻度が少ない）興行主から、利用条件や提出資料が多く煩雑であることへの対応希望があり、既存利用興行主からも運営方針変更に伴う条件の複雑化に対する対応希望があったため、今後の対応策について検討を行った。
- ・ イベント主催者との打合せにおいて、車いす席やアクセシブルトイレのほかユニバーサルデザインに配慮した施設・設備について、イベント内容に応じて活用できるよう案内した。
- ・ 管理運営の改善及び利便性の向上のため、興行主向けアンケートを実施。アンケート結果を踏まえ、来年度以降の運営改善に努める。
- ・ Jリーグが実施している来場者満足度調査（国立競技場で開催した試合のみを対象）を活用し、イベント来場者のニーズを把握。
- ・ B2F 壁画前・2F ゲート前などの有効空地についてまちづくり団体の活動エリアの登録を終え、興行主と活用検討を開始。
- ・ 来場者からのイベントや空の杜開放日等のお問い合わせに対応できるよう1F インフォメーションに人員を配置した。また、スタジアムツアーへの参加希望される高齢のお客さまやインバウンドのお客さまがインフォメーション窓口を尋ねに来られるケースが多いことに対して、スタッフがその場でスムーズにご案内できるよう日・英・中に対応した操作ガイドを作成。
- ・ イベント時の苦情に関しては専用窓口を設け、速やかに主催者と連携して対応行ったほか、以降開催するイベントの主催者へ共有し再発防止に努めた。
- ・ 25年4月以降の利用規約における利用料金の設定に関して、スポーツ団体に利用しやすい料金体系を維持しつつJSC運営時のものから見直しを実施した。
- ・ 利用規約 ver.2（26年1月以降適用）の策定に当たっては、ネーミングライツの導入に伴う規定を追加。利用規約 ver.3（26年4月以降適用）の策定にあたってはスポンサー・ホスピタリティ事業の導入に伴う規定を追加するとともに、利用料金表に統合演出システムと新規リボンビジョン・屋外サイネージなどをパッケージ化した。今後、施設維持管理コストを踏まえた料金などについて、検討を行う。
- ・ 専用利用の利用調整後に団体利用の日程調整を効率的に行うため予約システムの導入を検討。予約システムの候補を選定し、内容について検証を実施。

2-2 備品の貸出・設備の提供

- ・ 興行主との日頃からの関係性構築、日々のミーティングや全体会議での分科会等を通じて職員が説明・運営支援を行った。

- ・ 管理運営の改善及び利便性の向上のため、興行主向けアンケートを2回実施。
- ・ 興行主からの破損報告及び職員による巡回等により、什器備品・設備の故障や破損の有無を確認し、故障や破損したものについては、修繕を実施。

2-3 サービス提供

- ・ 飲食売店については、ICT 活用で注文待機列を解消するとともに、チェーン店ではなく、ここだから味わえる・おいしい体験を提供しお客さまの食体験向上をめざした”スタナカ”をコンセプトに策定し、32 区画の内 16 区画をテナントリーシング（契約は業務委託契約）を行い、残りの 16 区画については2社のサービサーへ委託し、26 年4月以降の本格運営に向けて準備。
- ・ 店舗区画の電気容量増強・換気設備増強・ファサード改修工事を実施し3月完成。
- ・ 興行主へヒアリングを行いながら、リボンビジョン、サイネージ、WiFi ネットワーク、統合演出システムなどの各種 ICT 設備の導入に向け準備を進め、26 年3月までに設置完了。ただし、統合演出システムについては、電源容量不足により利用開始を26 年第1四半期に延期。
- ・ 統合演出システムについて、各団体にて利用しやすい形にすべく、3月まで継続的に団体ヒアリングを実施。また、仮運用となる3-5 月興行対象に簡易説明会を実施。
- ・ 興行以外の利用促進の取り組みとして、協力企業に会場を貸し出し、謎解き、音楽、飲食、スポーツ等の複数コンテンツによる施設を回遊する企画を実施。25 年度の実績を踏まえ、貸出スキームの検討を継続。
- ・ ドコモの d アカウントと連携したモバイルアプリを開発しており、2026 年10 月のリリースを予定しています。

3. 安全管理・防災業務

- ・ ファシリティマネジメント部長を防火管理者とし、消防計画を作成。
- ・ 自衛消防隊は必要な資格を有する者を配置し適切な体制を整備。
- ・ BCP について、JSC が作成した BCP を踏まえ、作成完了。
- ・ 世界陸上の開催に向けた LOC 共同での避難訓練を調整し、実施。その他応急救護訓練、四谷警察とのテロ対策訓練等も実施。
- ・ 来場者避難誘導マニュアル（消防計画に定める自衛消防活動要領）に基づき、平時より訓練等を実施し、周知活動している。
- ・ 近隣各自治体と災害時における帰宅困難者支援に関する協定書等を締結。
- ・ イベント時は救急通報、救急車の受け入れから現場までの誘導、傷病者の搬送までを迅速かつ効率的に実施できるよう主催者と連携。搬送先に関して、必要に応じて救急隊員及び主催者側の医療担当者と連携して対応。

4. 近隣対応業務

- ・ 近隣住民に対して、今後開催されるイベント情報共有を行うため定期的にポスティングを実施した。
- ・ まちづくり協議会など地域会合にも参加し、周辺住民の声をヒアリングするなどステークホルダーとの関係構築を行った。
- ・ 神宮地区の主要施設とも定期的な会合を開催して、情報共有を行うとともに施設連携による問題解決、対策を行った。
- ・ 地域住民に関しては定期的に国立競技場に関するアンケート調査を行い(第一回は完了)し、地域連携に関する指標を検討した。
- ・ 音楽興行の開催に向けては、地域対応について知見のある協力企業と連携し、25 年 4 月、12 月の音楽興行で周辺住民へのポスティング、近隣地域との定期的なコミュニケーション、関係省庁への各種申請などの取組を実施した。26 年 4 月以降のすべての音楽興行でも対策を実施予定。
- ・ 音響対策として、音響 XR 技術の活用について、場内の視察・検証計画を検討中。
- ・ 遮音対策として、新規に遮幕購入(26 年 4 月より利用)。
- ・ 騒音対策として、遮音材を使用した対策を検討。8 月下旬に仮素材での試験、9 月中に別素材にて実証試験を実施。引き続き実用化に向け、素材、設置方法、設置個所等の検証を行っている。

(3) 維持管理業務

1. 保守管理業務

1-1 警備

- ・ 防災センターに常駐する委託先業務責任者と警備員で防犯防火の訓練を実施。これにより、非火災報や不法侵入が生じた際には迅速に対応を行うことができた。また、実際に発生した事案についての初動から完了までの対応を確認し、更なる防犯防火に努めた。
- ・ 館内・外構部で日常的に乱線巡回警備を行い、危険な行為や禁止行為等を行った者への呼びかけ・不審物の有無確認等確実に実施。
- ・ ハザードマップについては警備巡回点検による危険個所などの情報収集を行い、2026 年度版ハザードマップを作成。
- ・ 警備体制については、警備業法に基づき有資格者を責任者に配置し、24 時間 365 日有人で対応できる体制を整備。
- ・ 世界陸上財団(LOC)と協同した避難訓練及び消火器使用訓練の実施や警視庁によるテロ対策訓練の視察によりスタッフの緊急対応力の向上に取り組んだ。
- ・ イベント開催に伴う監視業務での危険察知に努めるとともに、利用者の不安や不便

を解消するため、困っている方への声掛け・遺失物の対応などを実施。

- ・ 熱中症対策キットやAED使用時の目隠し幕の導入により救急患者のプライバシー配慮なども実施。
- ・ 敷地内に不審者を発見し、声掛けに応じない場合は警察へ通報して対応した
- ・ P3ゲートエントランス周辺に警備員を配置しており、交通整理のほか、不審者侵入が無いように対策を講じている。

1-2 清掃

- ・ 日常清掃とイベント清掃の従事者を区分し、イベント規模に応じた増員体制を構築した。
- ・ 利用者から客席清掃などが不十分であるというクレームを受け、作業手順や方法を見直すなどにより品質改善に取り組んだ。
- ・ 各諸室の清掃チェックをイベント直前に実施するなど清掃方法や品質チェック体制を見直した。
- ・ 日常清掃(外構清掃含む)は清掃基準に基づき実施。そのうえで、突発的な汚れが発生している際は遊撃的な対応で即時清掃を実施。
- ・ 定期清掃はイベントスケジュールに応じて柔軟に実施。
- ・ 維持管理業務責任者、各業務責任者及び担当者が利用者との全体会議に参加し、イベント利用の状況を把握したうえで、イベント開催前に維持管理関係者全体による情報連携会議を実施し、各業務に従事した。

1-3 廃棄物処理

- ・ これまでと分別表示を見直し廃棄物の分別啓もうに取り組みつつ、回収した廃棄物の仕分けを実施し、廃棄物の効率的なリサイクル回収に貢献。回収業者それぞれと回収時間の調整を行い、廃棄物保管庫が溢れないよう効果的に運用実施
- ・ ペットボトルのリサイクル率向上とエコキャップ運動実施による社会貢献に向け、それぞれの専用ごみ箱を導入した。
- ・ あらかじめ主催者とごみの負担区分を協議し、それに基づき回収を実施した。

1-4 建築物保守管理

- ・ 建築物及び建築設備の保守点検業務に係る要求水準に基づき、設備員による日常点検にて建築物・建築設備の状態点検を実施。これにより、施設及び設備の運転状況(故障の予兆を含む)を随時把握。故障発生時には設備員による的確な応急対応を実施。
- ・ 保守管理計画(年間作業計画)を作成し、必要な定期点検作業を計画通り実施。(スタジアム特有の屋根トラス、競技用照明、地中温度制御設備(温水による芝生育成)などの保守点検を含む。)

- ・ 世界陸上開催期間中は LOC と連携し、大会開催に影響のない範囲で日常保守点検を実施するとともに LOC からの依頼を受け、準備工事における停電作業や消防設備調整、施設警備及び設備運転、競技用照明点灯作業など実施。
- ・ 独自の施設管理基準に則った点検仕様を策定し、必要に応じて仕様を見直ししながら、設備点検、保守管理に関する業務を実施。
- ・ 具体的には、世界陸上後の競技用備品の不具合確認・汚れ除去、受変電設備の法定点検と組み合わせた多面的な管理、競技用照明設備の照度測定、陸上競技計時・計測設備のメンテナンス、デジタルサイネージのイベント前の点検・清掃・故障発生時の設備員による応急対応、地中温度制御設備の保守管理、汚水横引き管の定期的な洗浄によるトイレ洗浄機能コントロール、エスカレーターのメーカーフルメンテナンス契約締結などを実施した。

1-5 建築設備保守管理

- ・ オリンピック施設での常駐実績を有し、スポーツ施設における「快適性・安全性に関する課題」と「効果的な解決策」の知見のある委託先業務責任者を常駐配置した。
- ・ 設備員による日常点検を実施し動作確認等を行い、正常稼働を確認。問題があれば応急措置のほか、メーカーと連携して予備品と交換などの対応により、施設利用の確実性や安全性、経済性を保つよう設備保守を実施。
- ・ 施設貸出前には電気ブレーカー、絶縁抵抗測定、給排水設備等イベント系統の設備をチェックすることで、イベント時にトラブルが発生しないよう設備日常点検の中で実施した。
- ・ 省エネルギーに資する効率的な運転等を行うため、エネルギー使用予測に基づき各機器の効率的な運転を実施。すべての電力調達を 100%再生可能エネルギーにより実施。
- ・ 2025 年度のエネルギー使用状況について毎月分析を行い、月次で維持管理報告を実施。
- ・ 関係法令（建基法・ビル管法・興行法）に基づく法定点検及び電力、用水、燃料等の供給状態の測定・記録を適切に実施し、その実施状況は日誌・月報等で管理している。必要な内容については、保健所等への報告を実施。

1-6 外構施設保守管理

- ・ 設備員による巡回点検だけでなく、警備員による巡回警備時の状況を共有し、外構施設の安全に配慮した保守管理を実施。
- ・ 記念作品の汚損・破損を早期発見できるよう、2025 年 3 月の定点撮影による写真及び前月点検実施時の写真をもとに点検を行い、その結果を劣化判定シートとしてまと

め、月次報告書にて提出。一部破損が発生した際は速やかに JSC に報告実施。

1-7 植栽維持管理

- ・ 植栽の種類などに応じて実施エリアを区切り、剪定・刈り込み・施肥作業を小分けに実施することで、現地作業を行う頻度を増やすこととし、イベント主催者等からの依頼による臨時作業を柔軟に実施できるようにした。

1-8 環境衛生

- ・ 関係法令に基づき、水質検査や空気環境測定、照度測定など環境衛生管理業務を適宜実施し、月次報告書にて提出。
- ・ 外構部及び大屋根について、ハト・スズメバチの目撃情報付近などの臨時巡回点検を実施し、発見した巣などは大きくなる前に除去実施。防鳥ネットの点検はゴンドラ等を利用し、破れやほつれが無いことを確認した。

1-9 芝生管理

- ・ 毎日の作業内容（生育補助装置の運用含む）について委託事業者と確認のうえ芝生管理業務を実施。
- ・ 世界規模の陸上大会における競技運営経験者を採用し、フィールド管理の体制を強化。
- ・ 音楽イベントや競技大会における臨時対応については主催者へヒアリングを行い、推奨する芝生養生材の採用などの要望を伝え、芝生管理を確実に実施。
- ・ 4/19～20、音楽イベント開催時、次の開催予定の競技大会において良好な芝生を提供するため、芝生保護材による養生時間を 64 時間で実施。
- ・ 7/22～8/2、芝生の生育状態を鑑み、ビッグロール工法による芝生張替実施（圃場育成期間：令和 5 年 6 月～令和 7 年 7 月の芝生を使用）。
- ・ 2025 年度事業開始前に 2026 年度秋に敷設する寒地型芝（冬芝）準備のため専用圃場と契約実施。
- ・ 10 月以降のサッカー、ラグビー日本代表戦を含む各種球技利用に向けて、寒地型種子の播種（WOS）を複数回実施し、天然芝ピッチのクォリティー（プレー性、美観等）を確保。
- ・ 全国主要スタジアム情報交換会（12 月）に参加し、各施設のグラウンドキーパーと芝生維持管理に関する意見交換を実施。
- ・ 音楽イベント開催時（12 月）、次の開催予定の競技大会において良好な芝生を提供するため、芝生保護材による養生時間を 56 時間で実施（芝生エリア内の花道設置無し）。

1-10 備品保守管理

- ・ 什器備品等の台帳を作成し、それに基づく貸出対応実施。
- ・ 更新工事に伴う備品の撤去・移設は随時 JSC に報告。
- ・ 器具庫等の整理整頓は適宜実施し、貸出及び点検しやすい状態を維持した。

1-11 東京 2020 大会レガシー設置物及び備品保守管理

- ・ 記念作品の汚損・破損を早期発見できるよう、2025 年 3 月の定点撮影による写真及び前月点検実施時の写真をもとに点検を行い、その結果を劣化判定シートとしてまとめ、月次報告書にて提出。

1-12 JSC 使用部分の保守管理

- ・ JSC 使用部分について日常清掃・定期清掃を実施。

2. 修繕業務

2-1 長寿命化計画の作成等に係る協力

- ・ 月次報告書において、修繕履歴や点検結果等の情報を提供。
- ・ JNSE が作成する長期・中期修繕計画及び JSC の長寿命化計画・大規模修繕計画の検討等に資するため、点検により把握した不具合を一覧にし、影響度・危険度による優先度を判定するとともに、修繕有無や実施時期等を明確にして管理を行った。
- ・ 保全に関する資料は単年度業務報告書とあわせて提出した。

2-2 調査診断・修繕の実施

- ・ タイムリーな情報共有を行うため、クラウドツールを活用した JNSE 関係者及び JSC 間のファイル共有について 9 月から運用開始。
- ・ 調査診断は外観目視方式を中心的に実施することを JSC に説明し、了解を得た上で、2～3 月で実施。結果については、4 月末に JSC へ報告。
- ・ 修繕計画の運用に向け、「国家機関の建築物等における保全計画作成の手引き」、建築保全センターや BELCA などの機関による参考資料を基に定めた判定基準及び今後の運用方法について、JSC と協議・確認を実施。
- ・ 修繕は利用に影響が出るものや危険度が高いものは応急措置にて対応。応急措置後、修繕実施か経過観察の判断を行い必要な修繕を実施。
- ・ ライフサイクルコストの低減を図るため、一部の修繕については、設備員による内製化を行っている。

2-3 修繕の報告

- ・ 建物管理統合システムの活用及び対面により修繕に関する月次報告を行うとともに、2026年2月から週次で細心の不具合及び修繕の状況を報告している。

2-4 施設台帳及び完成図面等の管理

- ・ 建物管理統合システムを導入し、作業報告・不具合報告・定期点検の年間スケジュールを維持管理会社と共有した。
- ・ 建築物台帳・設備台帳は随時修繕内容に応じて情報を更新した。
- ・ 今年度は、完成図面等の作成が必要となる修繕は発生しなかった。

3. 更新投資業務

3-1 長寿命化計画の作成等に係る協力

- ・ JSCの求めに応じて、更新投資に係る情報提供を行った。

3-2 更新投資の実施

- ・ LOCの事前準備とJSCの観戦BOX工事及びJNSEとしての更新工事に関するそれぞれの工事調整やスケジュール調整のファシリテート役を実施。
- ・ 更新工事については、当初計画からLOCとの調整を踏まえ、全ての工程を見直し、法令及び必要な手続に基づき、事前準備に支障の無い範囲で大会前にスイートルーム・リボンビジョンの増設工事を開始。大会終了後、増設工事を再開し3月に完成。

3-3 更新投資の報告

- ・ 更新投資箇所及びその結果についてJSCに速やかに報告を行い、JSCの立会いによる確認を受けた。

3-4 施設台帳及び完成図面等の管理

- ・ 施設台帳及び完成図面等への更新投資内容の反映については、来年度速やかに提出予定。

【更新投資箇所の整備状況】

- ・ B2F グランドスイート整備 3月7日竣工
- ・ 3F スイートルーム整備 3月7日竣工
- ・ リボンビジョン設置工事 3月7日竣工
- ・ 屋外広告設置 2月末竣工
- ・ 飲食テナント改修 3月13日竣工

(4) 任意業務

1. ネーミングライツ業務

- ・ OVG と連携し、国立競技場の価値を最大化するスポンサーシップの企画を行い、国内外の企業に対し提案を実行。
- ・ ナショナルスタジアムパートナー制度（ネーミングライツや広告露出にとどまらない、社会価値共創のためのパートナーシップ制度）を創設し、トップパートナー（ネーミングライツパートナー）については、2025 年 10 月に MUFG と契約を締結した。スポンサー価値を向上させるため、スポンサー名の場合内外における露出の最大化に向けて、デジタルサイネージ設置等の準備・調整を実施し、26 年 1 月より運用開始。

2. その他の任意業務

- ・ スポンサーシップ等を提案する企業候補の整理とセールス計画に基づき提案を行い、提案先ごとのニーズを反映させた権益内容を設計した。権益内容の設計にあたっては随時興行主側との交渉を重ね、権利競合の調整を図り、26 年 1 月からトップパートナーである MUFG の権益運用を開始。また、3 月からオフィシャルパートナー1 社の権益運用も開始。
- ・ 屋外での露出物については、随時東京都をはじめとする行政各所と調整を実施。
- ・ 外構部のデジタルサイネージ設置工事を 25 年末に完了、26 年 1 月から運用開始。スポンサー権益の最大化と案内誘導の両立に向けた取り組みを実施。
- ・ デジタルサイネージに関して、案内誘導や夜間の安全性向上を含む掲示計画を作成。夜間は 21 時まで外構サイネージを点灯し、外構通行の安全性向上に寄与。
- ・ 行政機関（JSC、東京都、警視庁）からサイネージ素材をいただき、3 月から投影を開始。なお、計画当初に想定していた興行の退場時の活用方法について、興行主の利用希望が少ないことが判明したため、今後、再検討を行う。
- ・ プロジェクションマッピングの実施検討に向け 25 年度内に 2 回のデモを実施し、以下の点について確認した。引き続き、計画達成に向け検討を行う（目標：26 年度中の実施判断）。
 - 視認性や投影機器の設置場所などは一定の確認ができた
 - 投影面積や映り方に課題が出てきたため、投影機器の増設など検討が必要
- ・ バラエティボックスは、利用団体との交渉の中で減席をしない形での実施意向が強いことを踏まえ、代替策としてピッチサイドへ仮設席を設置する形に変更。仮設席は 3 月末に納品。

(5) 世界陸上に関する評価項目

1. 会場使用協定に基づき、世界陸上大会の円滑な開催に必要な施設側の役割を果たすこと。
 - ・ 大会が円滑に運営されるよう、大会期間中は下記の業務を実施し、施設側の役割を果たした。
 - 競技場内及び外構等での競技やイベント、飲食売店の運営状況等の確認を行い、モーニング・イブニングの各セッション前のミーティングにおいて、運営方法の改善や利用者・周辺住民からいただいたご意見への対応について、LOC と調整を行った。
 - 設備運転監視については、準備に伴う停電作業や照明、空調等の依頼に応じて対応。
 - 警備については、館内警備及び夜間の入退館管理を実施するとともに、LOC との避難訓練・応急救護訓練の共同実施、警察との防犯体制に関する連携・協議に取り組んだ。
 - 清掃については、使用するトイレ等の拡大に伴い日常清掃の範囲を変更し実施。
 - 外構・植栽管理については、レガシー設置物周辺の除草作業実施。
 - ・ 東京 2020 大会の運営実績がある職員の知見を活かし、運営方法について LOC と調整を行った。
2. 世界陸上大会のテストイベントの開催やその他の事前準備の実施に必要な施設側の役割を果たすこと。
 - ・ LOC、JSC、関係者間で工事や会場使用協定など目的に応じた定例会議を開催することにより、大会の事前準備を円滑に実施することができた。
 - ・ テストイベントとして開催されたセイコーゴールデングラプリ陸上と日本陸上競技選手権大会において、施設側として果たすべき役割や業務内容について改めて確認した。
3. 世界陸上大会の設営及び撤去に係る期間において、主催者及び関係者と連携・調整し、可能な限り、
 - ①定例的なスポーツ競技大会の開催、
 - ②パラアスリートが活躍する場の提供、
 - ③ツアー等によるイベント以外での国民の入場機会の確保、
 - ④施設設備の維持管理（設備投資の実施を含む。）
 - ⑤周辺施設・住民との関係の醸成を行うこと。
 - ・ JFA/J リーグ/ラグビー協会/日本陸連等へは、定期的に打合せを実施し、工事状況等の説明を重ね、対話に真摯に向き合った。世界陸上開催、JNSE 工事による減席影響

については、要望等を踏まえた対策も実施。

- ・ LOC と工事や会場使用協定などの定例会議において、開催日程や事前準備、原状回復に伴う興行への影響に対する調整を行い、主催者と工事との責任区分を書面で確認したうえで、スポーツ競技大会 25 件(サッカー16 件、ラグビー3 件、陸上 5 件、その他 1 件)、音楽興行その他 3 件を開催。
- ・ パラアスリートが活躍する場の提供として、デフサッカー、パラ陸上大会 2 件(NAGASE カップ、JBMA ユニファイドラン)を実施。
- ・ スタジアムツアーについて、興行のない平日を中心に、改修工事に支障が生じないようルートを再設計したうえで催行したのに加え、イベント設営・撤去期間についても主催者から同意が得られた日程で実施。
- ・ 世界陸上を契機とした大会気運の醸成と子供たちの運動離れ対策として、東京都と共催で特別ツアーを実施。
- ・ 世界陸上大会期間の日常保守点検及び準備工事における停電作業や消防設備調整など実施
- ・ 施設警備及び設備運転、競技用照明点灯作業など実施
- ・ 通常使用していない特別仕様での競技用照明の点灯試験及び競技場での停電試験対応及び打合せ協議実施
- ・ 近隣住民に対して、今後開催されるイベント情報共有を行うため定期的にポスティングを実施したほか、まちづくり協議会など地域会合にも参加し、ステークホルダーとの関係構築を行った。

③ セルフモニタリングの結果

1. KPI のセルフモニタリング

KPI項目		業務区分	2025年度 (単年度計画)	2025年度 (実施状況)	JNSEによる 自己評価	
			目標	実績	達成状況	評価コメント（公表用）
主要KPI	年間売上	統括管理 業務	17億円	22.5億円	達成	貸館収入の増加等により、計画より目標を大きく達成。
	年間稼働率 ※稼働日数（準備日数 含）÷365日	運営業務	38%（139日）	47%(171日)	達成	専用利用で171日であり、目標を大幅に達成。
	年間利用者数	運営業務	171万人/年	231万人/年	達成	231万人と目標を大幅に達成。
サブKPI	顧客満足度	運営業務	観戦者満足度 (NPS) スコア+34	+ 17	未達	目標の参考とした2023年度は国立競技場の運営開始間もなく高い期待値等が影響していた。 JNSEの運営方針に沿った評価項目と改善事項の分析ができるよう、調査方法（形式・指標）の見直しを検討。
	年間イベント日数	運営業務	総イベント 50日 スポーツ 45日 音楽 4日	総イベント 69日 スポーツ 55日 音楽 4日	達成	スポーツ及び音楽興行ともに目標数を達成
	JNSE職員満足度	統括管理 業務	勤労者満足度 (eNPS) スコア▲60	▲31	達成	目標は大きく達成。更なる改善のポイントは「職場の一体感」
	施設利用における重大事故	維持管理 業務	0 件	0件	達成	設備点検・保守管理及び必要な修繕を適切に行い、施設利用に支障をきたすような重大事故は発生しなかった。
	未解決クレーム	維持管理 業務	2 件未満	0件	達成	クレームに対して、すぐに改善対策を講じて適切に対応した。
	作業未実施	維持管理 業務	0 件	0件	達成	年間実施計画で予定していた保守点検等について、確実に作業を実施した。
	再生可能エネルギー調達 ※再生可能エネルギー調達 ÷調達電気総量	維持管理 業務	100%	100%	達成	目標通り、再生可能エネルギー100%調達を達成

2. 要求水準等のセルフモニタリング

統括管理業務

業務	達成状況	自己評価コメント
マネジメント業務	達成	業務体制については、総合責任者及び各業務責任者の下、円滑な運営が行える業務体制を整えた。 清掃業務については、是正報告書に基づき、清掃業務の品質が保たれているか清掃業者によるセルフチェック体制強化、維持管理会社による最終チェックのほか、施設管理課による週1回の抜き打ちチェックを実施し改善できた。
総務・経理業務	達成	親会社と連携して、収支計画やKPIを策定し、期首、中間、期末と定期的に確認を行い、予算及び決算に関する管理を適切に行うことができた。 文書管理規程や情報管理規程等を整備し、文書の作成、管理を適切に行うことができた。
事業評価業務	達成	モニタリング実施計画書に基づき、セルフモニタリングの仕組みを構築し、各業務の進捗状況やKPIの達成状況を毎月確認・報告したほか、モニタリングの実施状況について監査部会や第三者諮問委員会において確認し、適切に実施することができた。
JSC への協力業務	達成	JSC と週次モニタリング分科会を実施して日常的な連絡調整に努めたほか、視察や広報・情報発信に係る様々な協力依頼に対応した。

運営業務

業務	達成状況	自己評価コメント
広報・魅力発信・誘致業務	達成	世界陸上の設営・撤去期間や改修工事期間においても支障が生じないよう調整の上、イベントの誘致やスタジアムツアーの開催を行うことができた。 プレスリリース、メディア取材、JNSEのWebサイト等での情報発信により、国立競技場の魅力を効果的に発信できた。
本施設の提供業務	達成	世界陸上の設営・撤去期間や改修工事期間においても支障が生じないよう調整の上、目標より多くのイベントを開催できた。 なお、興行主向けのアンケート結果や26年度運営方針説明会でいただいた以下のご意見等を踏まえ、課題解決に向け検討を行う。 ・利用条件/提出資料が煩雑である ・興行主利用エリアの減少、スポンサー・ホスピタリティによる活動等の新しい運営方針における課題 ・サイネージやリボンビジョン、統合演出システムの利用方法 統合演出システムについて26年4月の導入に向け準備を進めていたが、電源不足から利用開始を26年第1四半期に延期となったため、開始までの臨時対応等を行うなど支障がないよう対応する。

業務	達成状況	自己評価コメント
安全管理・防災業務	達成	消防計画を作成し、防火管理者の下、適切な体制を整備して対応できた。 BCP 作成のほか、帰宅困難者等一時滞在施設運営マニュアルの作成、近隣自治体との協定締結など、災害等による緊急時の体制を構築した。
近隣対策業務	達成	ポスティング等により近隣住民への情報提供を行ったほか、地域会合への参加等により周辺住民の声をヒアリングする等、ステークホルダーとの関係を深めることができた。 神宮外苑地区の主要施設とも定期的な会合を開催し、情報共有とともに施設連携による問題解決、対策を行うなど近隣に配慮した運営を行うことができた。

維持管理業務

業務	達成状況	自己評価コメント
保守管理業務	達成	業務要求水準で求められている事項を適切に実施したほか、世界陸上期間中は LOC と連携して保守管理業務を行い、大会の円滑な運営に必要な役割を果たすことができた。 清掃業務に関して、主催者から客席清掃などで不十分というクレームを受けたが、すぐに改善対策を講じて適切な改善を図り、美観向上と維持について意識変えを行い対応した。
修繕業務	達成	建物調査診断結果報告等に基づき中期修繕計画を見直すことにより、今年度必要な修繕を実施し、施設の機能及び性能を適切に維持することができた。

業務	達成状況	自己評価コメント
更新投資業務	達成	更新投資工事については、当初計画から LOC との調整を踏まえ、全ての工程を見直すことにより大会の事前準備及び大会後の原状回復に支障を生じさせることなく、26 年 3 月までに工事を完了することができた。 なお、施設台帳及び完成図面等を含む更新投資箇所の報告書については来年度速やかに提出予定。

任意業務

業務	達成状況	自己評価コメント
ネーミング・ライツ業務	— (世界陸上大会開催に伴う履行免除項目)	業務要求水準書 別添資料 9 の要件等を踏まえ、2025 年 10 月に MUFG とトップパートナー（ネーミングライツパートナー）の契約を締結することができた。
その他の任意業務	達成	ナショナルスタジアムパートナーの権益内容の設計にあたっては随時興行主側との交渉を重ねて権利競合の調整を図り、提案先ごとのニーズを反映させた権益内容を設計することで、トップパートナー1 社（26 年 1 月）とオフィシャルパートナー1 社（26 年 3 月）の権益運用を開始することができた。 プロジェクションマッピングについては、引き続き賑わい創出や広告価値向上につなげるべく準備・検討・テストを進め、26 年度中の実施決定判断を目指す。

3. 世界陸上に関する評価項目のセルフモニタリング

業務	達成状況	自己評価コメント
会場使用協定に基づき、世界陸上大会の円滑な開催に必要な施設側の役割を果たすこと。	達成	大会期間中に各セッション前に LOC とミーティングを実施し、運営方法の改善や利用者・周辺住民からの意見対応等を行い、世界陸上大会の円滑な開催に必要な施設側の役割を果たすことができた。
世界陸上大会のテストイベントの開催やその他の事前準備の実施に必要な施設側の役割を果たすこと。	達成	世界陸上大会のテストイベントの開催にあたり、世界陸上大会に向けた運営に関する課題を事前に確認したほか、LOC、JSC、関係者間での定例会議において大会の事前準備を円滑に行い、必要な施設側の役割を果たすことができた。
世界陸上大会の設営及び撤去に係る期間において、主催者及び関係者と連携・調整し、可能な限り、 ①定例的なスポーツ競技大会の開催、 ②パラアスリートが活躍する場の提供、 ③ツアー等によるイベント以外での国民の入場機会の確保、 ④施設設備の維持管理（設備投資の実施を含む。） ⑤周辺施設・住民との関係の醸成を行うこと。	達成	世界陸上大会の設営及び撤去に係る期間において、LOC との定例会議における調整及び主催団体への世界陸上大会等の工事状況の説明を重ね、サッカー、ラグビー、陸上、パラスポーツを開催することができた。 東京都との共催で特別ツアーを開催し、国民の入場機会を確保したほか、大会機運の醸成に努めた。 施設設備の維持管理については、通常の維持管理のほか世界陸上大会に必要な特別仕様での運用についても対応することができた。 周辺施設・住民に対して、定期的に情報提供を行ったほか、会合等に参加し関係を醸成することができた。

4. 財務状況のセルフモニタリング

今年度は、貸館事業やスポンサー事業等の売上により営業収益は 2,253 百万円となり、計画に比べて増収となりました。それに対し、営業費用は、施設管理費用の効率化・削減等により計画より減少した結果、営業損益▲1,417 百万円、経常損益▲2,823 百万円、税引後当期利益▲2,827 百万円となり、各段階の利益は計画を上回りました。

添付資料「第 2 期 貸借対照表及び損益計算書」参照

5. 修繕計画のセルフモニタリング

単年度修繕計画(2025年度)に関するセルフモニタリング結果について

大分類	対象箇所	作業内容	修繕分類	実施状況	未実施理由及び実施予定時期
外構	ろ過装置(カスケード)	濾材交換	I	未実施	ろ材確認し、目詰まりが少ないため、26年度まで延命。
外構	窒素吸着ろ過装置(カスケード)	濾材交換	I	未実施	ろ材確認し、目詰まりが少ないため、27年度まで延命。
外構	ろ過装置(せせらぎ)	濾材交換	II	-	-
外構	窒素吸着ろ過装置(せせらぎ)	濾材交換	I	未実施	ろ材確認し、目詰まりが少ないため、26年度まで延命。
電灯分岐	電灯分岐部 誘導灯	部品交換	I	未実施	バッテリー切れが一部(3個)のため、次回消防点検で再度状況判断実施。26年度実施予定
自家発電	自家発電設備 ガスタービンエンジン	ガスバルブユニット整備・ 部品交換	I	未実施	定期点検にてバルブに異常なしのため26年度に延命。
自家発電	自家発電設備 給気設備	ファンベルト交換	I	未実施	ファンベルトの損傷がほぼないため、26年度再度実施検討
自家発電	自家発電設備 給気設備	軸受交換	II	-	-
大型映像表示装置	大型映像装置	消耗部品交換	I	未実施	消耗部品に交換の必要性が少ないため見送り。⇒今後は補充品からの代用で対応
大型映像表示装置	大型映像装置	LEDパネル補充	I	一部実施	一部(48枚)補充
テレビ 共同受信	テレビ共同受信 CS/BS-IF帯増幅器他	定常修繕	II	-	-
空調機器	ガス吸収式冷温水機 冷却能力:1,406kw	冷却水系洗浄	I	未実施	内部確認し、汚れが少ないため、27年度実施
空調機器	パッケージ型空調機(空冷) 一般空調設備用 床置形	ファンベルト等交換他	II	-	-
空調機器	外調機(ユニット型) 風量:~10.350m3/h	コイル洗浄他	II	-	-
空調機器	電極式蒸気加湿器 ノズル挿入型	蒸気シリンダ交換	II	-	-
空調機器	滴下浸透気化式加湿器 天井カセット型	加湿モジュール他交換	II	-	-
換気機器	片吸込シロッコファン ~25,000m3/h	ファンベルト交換	II	-	-
換気機器	片吸込シロッコファン 32,500m3/h~	ファンベルト交換	II	-	-
換気機器	ODR-01 廃棄物処理室オゾン脱臭装置 天井埋込型殺菌・脱臭機能付空気清浄機 風量:32m3/h	オゾン反応器交換	II	-	-
換気機器	ODR-01 廃棄物処理室オゾン脱臭装置 天井埋込型殺菌・脱臭機能付空気清浄機 風量:32m3/h	イオナイザ・ファン交換	II	-	-
排水	排水ポンプ 雑排水用	軸封装置交換	II	-	-
排水(雨水)	排水ポンプ 雑排水用	軸封装置交換	II	-	-
排水処理	中水再利用設備 (厨房排水分)	レベルスイッチ交換	II	-	-
排水処理	中水再利用設備 (厨房排水分)	脱臭装置交換他	II	-	-
排水処理	中水再利用設備 (厨房排水分)	各種フロア交換	II	-	-
排水処理	中水再利用設備 (厨房排水分)	消毒剤注入ポンプ交換	II	-	-
その他	予備修繕費		II	-	-

④ 単年度修繕報告（今年度に実施した事後保全及び計画修繕）

≪修繕報告書一覧≫

No.	修繕工事名（報告書名）	報告日
1	大型映像装置修繕工事完了報告書	2025 年 6 月 23 日
2	1F AOYAMA ホールロールスクリーンレール交換工事報告書	2025 年 7 月 31 日
3	2F ラウンジ壁面クロス補修工事報告書	2025 年 7 月 31 日
4	B2F 更衣室 1 壁面塗装補修工事完了報告書	2025 年 7 月 31 日
5	防火シャッター補助リミットスイッチ交換工事・シャッター写真帳	2025 年 9 月 9 日
6	自動灌水ホース補修工事完了報告書	2025 年 9 月 25 日
7	大型ビジョン完了報告書兼不具合報告書	2025 年 10 月 16 日
8	駐車場ゲートバー対応①	2025 年 11 月 6 日
9	大型映像装置室内 9 インチモニター修繕	2025 年 12 月 24 日
10	駐車場泡消火設備保護ガード破損部修理工事完了報告書	2026 年 1 月 8 日
11	外部倉庫 N1 レバーハンドル交換工事報告書	2026 年 1 月 30 日
12	入場ゲート不具合箇所補修工事（E4,A4,A6,D2）完了報告書	2026 年 1 月 31 日
13	駐車場ゲートバー対応②	2026 年 2 月 13 日
14	防火シャッター補修工事（売店 W403 ）完了報告書	2026 年 2 月 17 日
15	世界陸上関連修繕報告書①	2026 年 2 月 28 日
16	世界陸上関連修繕報告書② LOC オペレーションルーム	2026 年 2 月 28 日
17	世界陸上関連修繕報告書③ B2F 大型駐車場市水槽等	2026 年 2 月 28 日
18	世界陸上関連修繕報告書④ B2F 大型駐車場柱の破損	2026 年 2 月 28 日
19	入場ゲート不具合箇所補修工事（A2-10）完了報告書	2026 年 3 月 6 日
20	コンセント修理	2026 年 3 月 21 日
21	免雷分離機交換作業報告書	2026 年 3 月 23 日
22	2F 厨房 1 ガス給湯器修理_施工完了報告書	2026 年 3 月 24 日
23	3F コンコース、B2F W6,7EV ホール他建具、壁塗装補修工事完了報告書	2026 年 3 月 24 日
24	大型映像装置 LED パネル完了報告書	2026 年 3 月 31 日

以上